

書店関係者にお願するページ

## 夢の(?)データベース

(株)紀伊國屋書店 京都営業所部長 太田黒 弘昭

現在、様々な図書・雑誌・新聞等のデータベース(DB)が販売されており、京都外国語大学付属図書館でも利用者の方々にサービスされています。DBは当初、所謂二次資料といわれる論文記事検索・書誌情報検索を主な目的として作られています。例えば、あるテーマについての論文や書籍にどのようなものがあるのかを調べ、その検索結果のリストをもとに実際の雑誌や図書を改めて図書館等で探す、というのが一般的な利用方法でした。それは、雑誌の論文そのもの(一次資料と呼びます)や図書の内容がデータ化されていなかったからです。しかし、現在は一次資料のデータ化が進み、同じデータベースといっても内容が多様化しています。

現在最も利用されているのは、各社の新聞記事でしょう。国内外の主な新聞は殆どインターネット上で閲覧が可能になっています。

また最近特に増えているのは事典関係です。国内のものだけでなく、海外のものでも、Britannica等の百科事典のほか、様々な分野の100種類以上の事典類を横断検索できるDBも登場しています。

更に専門性の高いものになりますと、海外の学術雑誌のオンライン版、いわゆる電子ジャーナルもDBの一種です。雑誌自体の電子化が進み、出版社のサイトに直接アクセスして、契約している個々の雑誌を閲覧する方法が一般化しています。さらには、DB会社が出版社とライセンス契約し、そのDBに搭載されている論文記事を全て閲覧できるようにする<アグリゲータ・データベース>もあります。こちらの図書館でサービスされているEBSCOhostがその代表的なものでしょう。

今後はどのようなDBが出てくるのでしょうか。身近なところでは電子書籍、いわゆるeBookが増えてくることでしょう。図書館のOPACで検索した図書を図書館から借りるのでなく、決められた

期間内で自宅のパソコンで読書するということになるかもしれません。アメリカでは既にNetLibraryというeBookサービスがかなり普及しています。

ところで、最も身近なところでは、図書館の所蔵データ(OPAC)も大きなDBのひとつです。殆どの図書館のOPAC検索は、利用者の皆さんが探している本に辿り着けるように、また、調べたい内容について書かれた書籍が図書館にあるかどうかを調べられるようにと作られています。その意味では本を探す目的がはっきりしている場合は大変便利なものです。

でも、本は目的がはっきりしなくても読みたくなることがあります。皆さんも書店に行った時、目的も無く書棚を眺めながら、こんな本があるのかと興味をそそられることも多いことでしょう。また、企画物のコーナーで、あるテーマについて様々な本が刊行されていることを再発見し、つい読みたくなることもあると思います。京都外国語大学付属図書館のホームページ(HP)にはこの企画コーナーがたくさんあります。私は仕事柄いろいろな大学のHPや図書館のOPACを拝見する機会がありますが、この図書に関する様々な企画コーナーはきわめてユニークなものだと感じています。この企画の情報源は全て図書館の所蔵データですが、利用者の方が思っても見なかった(ここがポイントです)いろいろな本と出会うように、あらゆる角度からの道案内として工夫されているのです。

先にご紹介してきた様々なデータベースも、言ってみればOPAC検索と同じように、検索目的がはっきりしている時には非常に便利で威力を発揮するものです。でも、たまには書店をぶらぶらする感覚でWeb上で散歩が出来て、そこで新しい資料に出会えたらいいなとも思います。セマンティック・ウェブ、といった言葉も飛び交っていますが、そんな道案内のようなデータベースが早く登場しないかと夢見ております。

おおたぐる ひろあき